

はなの輪

広島市植物公園植物友の会

2026年4月-6月 通巻第187号



広島市植物公園 開園50周年



開園50周年ロゴマーク
お披露目式（2026年2月21日）



開園50周年を迎えるにあたり、
記念ロゴマークを作成しました。



ラン科の植物を集中的に保全する『特定植物保全拠点園』として、多くのランを収集・保存しています。



当園の『変わり葉ゼラニウム品種群』は（公社）日本植物園協会のナショナルコレクションに認定されています。



熱帯スイレン温室では50種類を超える熱帯性スイレンを栽培しています。夏のオオオニバス試乗体験会は大人気です。



ベゴニア温室では、当園作出の新品種を含む約680種類、2,000株のさまざまなベゴニアを栽培しています。



大温室では日本最大級のオーストラリアバオバブのほか、たくさんの大型の熱帯植物を栽培しています。



貴重な多年草ヤチシャジンの他、広島県内産種を中心に日本の絶滅危惧植物の保全に取り組んでいます。



野生植物や貴重な園芸品種保存に取り組むだけでなく、広島市の被爆樹木の苗や種子を保存し海外へ発送する活動も行っています。



フラワーデザイン展について

フラワーデザインに関する知識の普及を通じて植物への関心を高めるために、令和8年2月21日（土）から2月27日（金）の期間で、「フラワーデザイン展（通算49回目）」を開催しました。「春のフラワーデザイン」をテーマに、公益社団法人日本フラワーデザイナー協会広島県支部の皆さんにより制作された28点の作品が展示室を彩りました。

フラワーデザインとは、自然のままでも美しい植物の魅力をさらに引き出し、生活のTPOにあわせて一定のデザイン原則や基礎技法を踏まえ、より美しく表現する造形の総称です。花材は生花だけでなく、落ち葉やドライフラワー、プリザーブドフラワーなども用います。

プリザーブドフラワーは、生花を脱水・脱色した後に、再染色することで2～3年はその美しさを保ち続ける事が出来る花材です。今年と同支部長が日本フラワーデザイン大賞2025プリザーブドデザイン部門で第1位を受賞したことから、受賞作品の「未来の花」も展示しました。

2月22日（日）の11時と13時半からはフラワーデザイン実演会を行い、フラワーデザインのデモンストレーションを行ったあと、実演会で制作したフラワーデザイン作品の抽選会も行われました。

色彩豊かで明るい印象の作品から、シックで落ち着いた作品、空間を生かした個性豊かな作品など、どの作品も色や配置などを試行錯誤し生まれた作品であると意識しながら鑑賞すると、また違った発見があるかもしれません。次回のフラワーデザイン展もお楽しみに！

[写真・文：中原 祥之]



写真1 プリザーブドデザイン「未来の花」
制作：横山 由美子氏



写真2 フラワーデザイン実演会（2月22日）
講師：尾楠 美代子氏



写真3 様々な展示作品

2026年4月～6月 展示会・イベント案内

3/20 (金・祝)
～ 4/19 (日)

さくらまつり

70種類を超える桜の競演。4月中旬まで、八重桜（里桜）や菊桜が園内を彩ります。春のコンサートやキッチンカーの出店も。

5/9 (土)
～ 5/24 (日)

ローズ フェスティバル

歴史的な古品種など、県内最多の850品種のバラがお出迎え。講習会やガイドツアーなどのイベントも開催。



ハナショウブウイーク 5/30 (土) ～ 6/14 (日)



アジサイウイーク 5/30 (土) ～ 6/28 (日)

展示会のご案内

展示会の内容は、一部変更になる場合があります。
最新情報はホームページ・電話等でご確認ください。

ゼラニウム展		3/7～4/12	展示温室
「草木染の世界」展	共催：広島草木染の会	3/14～4/9	展示資料館
サクラソウ展	協力：植物友の会植物同好会	4/11～4/22	屋外展示場
開園50周年特別企画展「蘭花譜展」		4/18～5/13	展示資料館
エビネ展	共催：安芸えびね研究会	4/18～4/21	展示温室
春の山野草展	共催：広島山草同好会	4/18～4/23	大温室前大テント
春の洋ラン展	協力：広島洋蘭倶楽部 他	4/25～5/6	展示温室
クレマチス展	共催：日本クレマチス協会広島支部	4/25～5/6	屋外展示場
セッコク・長生蘭展	共催：瀬戸内セッコク愛好会	5/9～5/13	展示温室
ハーブ展	ギャラリートーク 5/16 11:00～	5/16～5/24	展示温室
趣味のボタニカルアート展	共催：花も実もある会	5/16～6/3	展示資料館
遅咲きクレマチス展	共催：日本クレマチス協会広島支部	5/20～5/24	屋外展示場
セントポーリアとイワタバコの仲間展	協力：広島セントポーリアの会	5/27～6/7	展示温室
アジサイ展		5/30～6/28	屋外展示場
初夏の小品盆栽展	共催：広島小品盆栽会	6/6～6/8	展示資料館
ウチョウラン展	共催：広島ウチョウラン保存会	6/13～6/18	展示温室
私の好きな花たちの写真展	共催：草花写真愛好会	6/13～7/9	展示資料館
初夏のカラフルリーフ展		6/27～7/12	展示温室

大型連休のイベント（一部抜粋）

ネモフィラウイーク
4/18土～5/6水休

5/3日祝
花の苗プレゼント 先着500名

5/5火祝
高校生入園料無料
花の苗プレゼント 先着500名

Event Information 2026 4-6

植物公園で開催されるイベントを紹介します

4月

さくら写真撮影講習会（各日先着20名）

4月4日（土）午後1時半～3時

広島市消防音楽隊コンサート

4月12日（日）午前11時～11時半

春の山野草実演会（先着50名程度）

4月19日（日）午後1時半～2時半

5月

クレマチス実演会（先着50名）

5月3日（日・祝）午後1時半～2時半

5/4月祝

【みどりの日&植物園の日】

入園料無料 ※駐車料金は有料

洋ラン講演会（先着100名程度）

5月5日（火・祝）午後1時半～2時半

デンドロビウムの育て方と植え替え（山口 祐氏）

友の会ワークショップ（先着50名）

お絵かきでオンリーワンのプランターづくり

5月6日（水・休）午前10時～午後3時

セッコク実演会（先着20名程度）

5月10日（日）午前11時～正午

ボタニカルアート色付け体験（先着15名）

5月24日（日）午前10時～11時半

バラ講習会（先着100名程度、育て方を解説）

5月24日（日）午後1時半～3時半

究極のグリガデメソッド（岡本 康志氏）

お茶会（先着100名、一服400円）

5月31日（日）午前10時半～

6月

ハナショウブ観賞会（先着30名程度）

6月6日（土）午前10時～11時

アジサイ実演会（先着50名程度）

6月7日（日）・14日（日）午前11時～正午

お茶会（先着100名、一服400円）

6月7日（日）・14日（日）午前10時半～

草笛体験会

6月7日（日）午後1時～3時

小品盆栽実演会（先着100名程度）

6月7日（日）午後1時半～2時半

変化朝顔講演会（先着100名程度）

6月13日（土）午前11時～正午

江戸の園芸文化と変化朝顔の流行（楳木 敬太氏）

植物写真撮影講習会（先着30名）

6月21日（日）午後1時半～3時

＊毎週土・日曜日・祝日 午後1時半～3時20分は、ガイドボランティアが園内を案内しています

＊4/12, 4/21, 5/6, 5/26, 6/6, 6/23 各日午前11時～園内で職員による植物うんちく語りを実施しています

＊イベントの内容は、一部変更になる場合があります。最新情報はホームページ・電話等でご確認ください。



植物うんちく語り年間スケジュール

申込制のイベント ※往復ハガキに催し名・住所・氏名・電話番号（・希望日）を記入してお申込みください。植物公園ホームページからもお申込みいただけます。

催し名・日程	内容等	定員	締切	申込QR
先生と子供のための森の幼稚園 6月14日（日）午後1時半～3時	お山に登ろうをテーマに、自然の中で遊びます。年中・年長の子供と保護者、幼稚園等の先生が対象です。保険代100円。	25名 （抽選）	5月28日 【必着】	

職員作出の香りのミニバラ Fragrant miniature roses bred by staff



特別展示 ‘いちご大福’



特別展示 ‘プチ・カスタード’



バラ園 (約700品種を植栽)

ローズフェスティバルでは、バラ園などの地植えのバラに加えて、鉢植えで管理しているコレクションも園内各所で展示します。今年は、開園50周年記念として、職員作出の香りのミニバラを特別展示します。世界でここだけにしかない新品種の数々をお楽しみください。

ワレマチス展&遅咲きワレマチス展 Clematis exhibition



展示風景 (クレマチス展)



臨時売店 (遅咲きクレマチス展)



小河内のカザグルマ



クレマチス ‘カイゼル’



クレマチス ‘星のタンゴ’



クレマチス ソシアリス

クレマチスはつる性植物の女王とも呼ばれ、人気が高く種類の多い園芸植物です。花の見頃の時期に合わせて、日本クレマチス協会広島支部との共催でクレマチス展 (4/25~5/6) ・遅咲きクレマチス展 (5/20~24) を行っています。華やかで豪華な大輪系の品種のほか、野生種のカザグルマや珍しい壺咲きの原種など、幅広く充実した展示は西日本有数の規模を誇ります。

4月～6月に見ごろを迎える植物



4月中旬

サクラ‘関山’
(芝生広場)



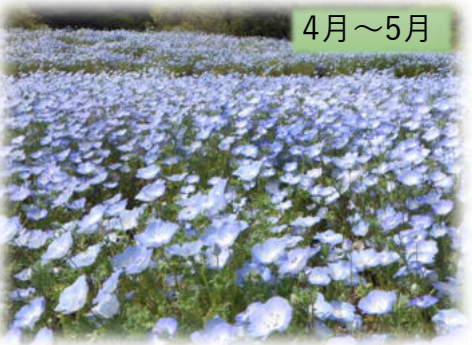
4月

リビングストーンデージー
(大温室前花壇)



6月頃

スカシユリ
(花の進化園)



4月～5月

ネモフィラ
(レストラン前花壇)



5月下旬～6月中旬

ソーセージノキ
(大温室)



5月～7月

サラセニア
(熱帯スイレン温室入口)



5月頃

フェロカクタス‘黄彩玉’
(サボテン温室)



4月下旬～5月上旬

フジ
(休憩展望塔)



5月中旬～下旬

バラ‘ブルーパフェウム’
(バラ園)



5月上旬～中旬

アヤメ
(日本庭園ほか)



6月上旬

ヤマアジサイ‘黒姫’
(日本庭園奥)



4月下旬～5月中旬

サクラソウ
(里山の野草園)

サクラやバラなどの誰もが知っている花が数多く咲き、多くのお客様が訪れる季節になりました。一口にサクラやバラといっても、花卉の数、花色などの様々な園芸品種があり、それらを近くで見比べる事が出来るのは植物公園の魅力の一つのように感じます。ぜひお出かけください。[写真・文：中原 祥之]

Plant Doctor Q&A

植物公園では、緑の相談窓口を設置しています。
家庭園芸のお困りごと、何でもご相談ください。
[☎082-922-3600 金曜を除く午後1時～4時]

Q. 育てているカンアオイの花が春に咲かないのは何故ですか？

A. 春にカンアオイの開花が見られない場合、理由として以下の3つが挙げられます。

①春に開花する種・品種ではない

ウスバサイシンなど落葉性のカンアオイやサンヨウアオイなど常緑性のカンアオイのほとんどの種は春に開花しますが、カントウアオイやヒメカンアオイ群の一部の集団は秋に開花します。そのため、春に開花しない場合は、そもそも春に開花する種や品種ではないことが考えられます。特に、秋咲きのカントウアオイから育種された品種が多い『細辛』と呼ばれる園芸品種群は、秋咲きの品種が多いです。

②用土の下で咲いている

植替えの際に株を深植えにしてしまうと、花芽が用土の上まで伸びずにそのまま地中で開花することがあります。この場合は、株元の用土を少し取り除くと、花芽を見つけることができます。

③そもそも花芽がついていない

カンアオイの仲間は株が小さい時は、あまり花芽をつけません。そのため、株分け直後などで株が小さい時には、開花しないことが多いです。また、カンアオイに限った話ではありませんが、開花させると成長が遅れてしまうので、早く株を大きく育成させたい場合には花芽を取り除くと良いでしょう。

[文 佐藤 祐輔]

Q. リトープスが真ん中から割れ始めたのですが、外側は剥いた方が良いですか？

A. 剥かない方が良いです。

リトープスは春先に脱皮をします。脱皮とは、外側の葉が割れて新しい葉が中から出てくることですが、これを途中で妨げると新しい葉が大きくなれません。

なぜかという、新しい葉は、外側の葉の水分を吸収しながら出てくることで、以前よりも大きな株になるからです。このため、途中で剥いてしまうと水分が吸収しきれず、株が小さくなってしまいます。

そもそも外側の古い葉を剥く必要はないのですが、あえて剥くなら外側の葉がパリパリに乾いてからにしてあげてください。剥く際は、ピンセットなどを使って新しい葉が傷つかないように慎重に行いましょう。

また、脱皮中に水やりをすると新しい葉も脱皮する二重脱皮をしてしまう可能性があるため、脱皮がはじまったら完了するまで水やりは控えてください。



写真 脱皮中のリトープス

[写真・文 加藤 美咲]

Q. 杏仁豆腐には、アンズの種(杏仁)が使われていると聞きました。仁(にん)とは何でしょうか？

杏仁(あんじん/きょうにん)は、アンズの種子のうち、硬い外殻を取り除いたもので、種子の中身(胚や胚乳に当たる部分)のことを仁(にん、じん)と呼びます。アンズはスモモ属(Prunus)の植物で、この種子の作りは、ウメやモモなど、スモモ属に共通したものであり、果肉(中果皮)の内側に核(内果皮)と呼ばれる硬い殻を持った種子が1つあります。杏仁豆腐は、この仁の部分(胚乳)が風味付けに使われており、独特な甘い香りがするのです。製品によっては、よく似た香りのするアーモンドを用いることもあるようです。

古い慣用句に、「梅は食うとも核(さね)食うな、中に天神寝てござる」というものがあり、生の梅の種は食べないほうが良いという伝承もあります。中には食用に適さない仁もありますので、注意が必要です。

[文 久保 晴盛]

イチゴって何の仲間？

皆さんは、イチゴが何科の植物か知っていますか？

実は、バラ科です。普段よく目にするイチゴの実の形や、バラの花の形からは想像しにくいですが、イチゴの花と一重咲きのバラを見比べると似ていることが分かるかと思います。また、イチゴのほかサクラ・アーモンド・モモ・ビワなどもバラ科の植物です。

バラ科の植物の花の特徴は、放射相称であること、両性花であること、がく片と花弁の数が5の倍数であること、おしべがたくさんあること、がく片と花弁が区別できることなどで、葉には托葉があることが特徴です。

なお、先述した特徴は、「当てはまることが多い」という程度で、バラ科植物全てに当てはまるわけではないことに注意が必要です。しかし、「当てはまることが多い」ということは植物の種類を調べるうえで大きな手掛かりになるので、それぞれの科ごとの特徴を覚えることで植物を見分ける力が付き、より楽しく、早く、正しい答えに辿り着けるようになります。

ここまで小難しいことを書いてきましたが、植物を観察するために重要なことは、楽しむことです！
なので、難しく考えすぎずに「楽しく」植物を観察してください！

[写真・文 中川 悠]



写真1 イチゴの花



写真2 ノイバラの花



写真3 ヤマザクラの花



写真4 イチゴの托葉



写真5 バラの托葉



写真6 ヒマラヤザクラの托葉

広島市植物公園

広島市佐伯区倉重三丁目495

☎ 082-922-3600 📠 FAX 082-923-6100

- 開園時間 午前9時～午後4時半（入園は4時まで）
- 休園日 毎週金曜日
- 入園料 大人510円、高校生および65歳以上170円、中学生以下無料
- 駐車料 軽・普通自動車450円、中・大型車1,400円

